## 学校現場から悲鳴が聞こえる

# 第14回 「スクールスタンダードの指導とは」

「学級崩壊」という語が出始めたのは１９９０年代後半からで、特に小学校での状況が新聞やテレビなどのマスコミに取り上げられ、社会的な問題となりました。ベテランと言われた教師が苦悩するドキュメンタリーも放映され、武田鉄矢主演の金八先生シリーズでも取り上げられました。マスコミで取り上げられてからの約２０年の間には、「モンスターペアレント」といった新たな社会現象も出てきました。

文科省や教育委員会ではその時々に教育現場に実態調査を求め、指導の提言を行ってきましたが、最近では「スクールスタンダード」という指導が全国的に行われているようです。

### 蛍光ペンは使わせないで！

R さん「私は小学校に勤務しています。ある日の掃除の時間に私の教室に６年の担任がやって来て慌てて話し始めました。『ねえねえ、こういうのどう思う？学年主任が私に〝蛍光ペンは使わせないで下さい、学年で決めていますから〟とか〝計算ドリルは１日に１回ずつ、１日に３回はやらせないで下さい〟とか言うんだよ。私は１日に３回だってやらないよりやった方がいいと思ってやらせていたんだけどさぁ。なんでこういうことを強制するんかねえ。』と言うのです。私は強制するのはおかしいですよねと答えさらに続けました。最近は学習の仕方とかをいろいろ細かく決めるのが流行っていて『スクールスタンダード』って言うんですけど、掲示物とかを全部の教室で揃えようという流れがあるんです。うちの学校の校内研修でもやっているじゃないですかと話しました。」

記者「具体的にはどういうことですか。」

### 特別支援教育の中で進んできた

R さん「私の勤務校では校内研修のなかで掲示物などの決まりが統一されています。必ず掲示することになっているのは『ハンドサインの仕方』、『声の大きさ』他にもありますが。そもそも、このように掲示物を揃えたりするのは特別支援教育のなかで進んできたらしいです。教室ごとに環境が違うと適応できない子もいるので、全部の掲示物を同じにして、それぞれの教室の同じ場所に掲示しようということだそうです。」

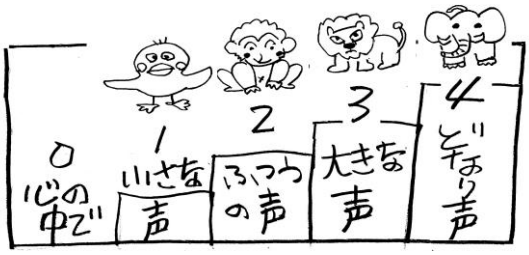
### ハンドサインで全員が挙手

記者「ハンドサインとはどのような時にどんなサインを使うのですか。」

R さん「例えば、先に誰かが発言した際、その発言と同じ意見だという場合にはパーを挙げる、その発言とは違う意見がある場合はグーを挙げる、その発言に付け足す意見がある場合はチョキを挙げる、質問の時は人差し指を挙げるというような決まりを作り、教室に掲示しておきます。これによって、挙手をした全ての子が意見を表明できるので授業に参加出来るとか、次の発言者を決めるときに予め発言内容が分かるので授業の流れを作ることが出来るとか、いろんな利点があるとされているようです。」

記者「実際の場面を見たことがないのでよく分かりませんが、賛成、反対、付け足しの三つに自分の意見を単純化できるものなのでしょうか。一部は賛成だがこのところは別の考えがあるといった場合はどんなサインを出すのでしょうか。野球のブロックサインになってしまいますね。(笑)」

R さん「ハンドサインについては授業のなかで使うもので、教員それぞれの授業スタイルがあるのに統一しようというのはおかしいと思います。私は使っていません。研修の場でそのことを発言しても研修主任や教務主任は『ハンドサインは内気な子でも自分の意思を表明できるいい方法だ』とか『担任によってやり方が違うと、担任が替わる度にサインが変わってしまって、子どもが戸惑う』という意見で押し切ろうとします。『使いたくない』という発言に対しまともな応えもなく、私も掲示物くらいで会議を長引かせてもと思い、それ以上の発言はしませんでしたが、万事がこの調子です。」




## 声のものさし

記者「ネットで検索すると実践校のスクールスタンダードがいくつか出てきますね。発言のルールも細かく書いてあり、『声のものさし』では０～４までランクがあり、動物の絵と一緒になって掲示されています。０は静かに話を聞く、１はひよこの絵で隣の人と静かに話す声、２は猿の絵でグループで話す声、３はライオンの絵でクラスみんなと話す声、４は象の絵で広いところで話す声というようにありました。確かに発言中にザワザワすることもあり、このようにレベルを指示しておくと統制が効くのでしょうが、先生がここは２とかここでは３といちいち指摘するのではいかにもマニュアル的でどうなのかなと首をかしげたくなりますね。」

## 授業の初めに「めあて」最後に「振り返り」

R さん「掲示物は全部の教室に配られました。貼りたくはないのですが、あとが面倒なので教室の横の方の壁に貼っておきました。さらに校内研修で統一した授業方法が出されます。それは『授業の初めに、その時間の〝めあて〟を必ず書いて下さい。そうすることで、子どもはめあてを持って授業に臨めます。そして、授業の最後には必ず〝振り返り〟をして下さい。』以前は、授業研究の場で〝導入の工夫〟ということがよく言われました。授業が興味を持って受けられるようにいろいろと工夫がされました。それが今は〝めあて〟を書けというのです。これも会議の場で反論しましたがまともな論議もなく『やってください』となりました。私は授業の方法などはそれぞれの教員が工夫するもので、統一すべきものだとは思っていません。このような最近の風潮がとても居心地を悪くしています。そして、いろいろなことを統一しようという流れには恐ろしいものを感じます。冒頭の６年の担任に私の思いを伝えたところ、納得して安心して教室から出て行きました。」

記者「前号では高校の現場から、『統一した指導方針の名の下』に生徒指導が進められているという問題点を取り上げました。今回にも共通点があるようです。私も若い頃は全国の優れた実践に学ぼうと全国の様々な研究会に出かけては吸収しました。実践を取り入れて上手くいくことも失敗することもありました。マニュアル通りにいかないのが教育です。教師の主体的力量はどうあるべきかが問われているように思います。」